

(班) 苗代小 坂野 百香 (副) 宮根小 加藤 奈都子 東志賀小 橋本 征哉
 瑞穂小 石橋 俊太郎 常磐小 池戸 颯 牧の原小 西村 春希

自ら学びに向かうことができる児童の育成

1 研究のねらい

私たちは自ら学びに向かうことができる児童を育てたい。私たちの考える「自ら学びに向かうことができる児童」とは、自分の力で問題を解決し、解決方法を説明することのできる児童である。そのためには、問題場面を理解し、必要に応じて図や表に整理して数量関係を捉え、立式をする、という道筋を自分の力で考えなければならない。

私たちの担任する学級で行った算数科に関するアンケート（5校／153人）では、右図のようになった。アンケート結果からは、



児童が自信をもって算数の授業において「自ら学びに向かう」ことができているとまでは言えず、各校において、自分の力で問題を解決し、解決方法を説明することができるような手立てを講じる必要があると考えた。そこで本グループでは、解決方法の説明に着目して導入・展開・振り返りの各場面での手立てを考えた。

導入の場面で既習事項と未習事項を明確にできるような問題提示の仕方に対する手立てと、展開の場面で算数の言葉を使って解決方法を説明させるための手立て、振り返りの場面で自分の考えをまとめるための手立てを講じる。これらの三つの手立てを講じることで、本研究の目指す児童の姿に迫っていきたい。

2 研究の内容

(1) 指導上での問題点

私たちの指導には、児童が問題解決に向かう際の道筋を明確にするための工夫が不足していた。そのため、「なぜその方法で解けたのか」自分の考えを説明できる児童の割合が3割程度と低かった。そこで、導入の場面において、前時を踏まえた本時の問題の課題点を明らかにさせ、問題解決の方法を明確にさせるための工夫をしたり、振り返りの場面において、その明確にした方法を言葉で説明できるようにさせるための工夫をしたりすることで、私たちが直面する指導上の問題の解決につながると考えた。

(2) 具体的な手立て

手立て① 自らのめあてを立てさせる場の工夫

既習事項をもとに、新たな学習を進められるという算数ならではのよさに着目し、提示した問題を既習事項・未習事項に区別させることで、提示した問題の課題点を明らかにさせる。その後、明らかにした課題点を踏まえた上で本時の自らのめあてを立てることができるようにする。

手立て② 問題解決の方法を説明させる場の工夫

単元内で学習した数学的表現（式、用語、表など）の名前や意味、使用する場面などをカードにまとめさせる。その後、作成したカードを使いながら問題解決の方法を説明させる。また問題解決後、理解度や考え方でグループに分かれ、ホワイトボード等を使用して学び合い活動を行わせる。

手立て③ 問題を解決するために必要な考えを振り返る場の工夫

授業の終わりに「どのようにしたことによって解決に至ったのか」を振り返りシートに記述させることで、本時の問題を解決するために必要であった数学的な見方や考え方を振り返らせる。